

「被災地支援 パワフルに」

大学生団体がフォーラム



長崎から被災地に向けて何ができるか意見を交わした＝長崎市文教町

長崎の大学生が東日本大震災の被災地を支援しようと立ち上げた学生団体「長崎SIPS」は5日、長崎大で「いまここプロジェクト」と題してフォーラムを開いた。被災地に赴いたり、被災地向けの活動をしたりしている学生や市民団体が「いまから、ここからできること」を巡り、意見を交わした。

同大工学部2年の松岡広明さんは水産学部の練習船「長崎丸」に乗り、放射線を測りながら福島に支援物資を運んだ体験を紹介し

た。島原からバス「ご恩返し号」で被災地支援をしてきた島原ボランティア協議会の旭芳理事長は、20年前の大火砕流後の経験も踏まえ「被災地には末長い支援が必要だ」と語った。

長崎に避難してきた被災者の生活を支援する「長崎ソカイ ネットワーク」なども活動を紹介。「長崎SIPS」の代表で長崎大工学部3年の野口和暉さんは「学生には時間と体力がある。パワフルに支援をした」と述べた。長崎SIPSの連絡先はメール(masa